だんごむし通信

1月号

発行元
慶應義塾大学　防災社会デザイン研究室
監修：環境情報学部 准教授　大木聖子

下ノ加江小学校のみなさん，保護者の皆様，地域の皆様

明けましておめでとうございます．今年もどうぞ宜しくお願いします．今年初めのだんごむし通信では，東日本大震災を経験した小学生の女の子が書いた作文を紹介するよ．みんなと同じくらいの年齢だね．まずは作文を読んでみてね．その後，作文を読んだ感想を家族と話したり，今から何ができるかを考えたりしてみよう．

「毎日が不べんです」

陸前高田市 小学校三年 遠野玲奈

三月十一日、東日本大震災がありました。その時、私は、学校にいてみんなで、高じゅ園（老人ホーム）にひっしににげました。私の気持ちは、すごくこわかったです。

それからは、電気も水道も出なくなりました。毎日が不べんです。トイレは外でやるようだし、手は洗えないから、とても不べんでした。

それからしばらくたった時、四月二十日、やっと学校にいけるようになりました。友だちに会えたとき、とてもうれしかったです。転校した人がとても多かったです。私の友だちも、たくさんの人が転校しました。クラスの人もへりました。とても、ざんねんです。

来年や、さ来年には、町のがれきがかたづいていれば、いいなぁと思います。がれきがかたづいて、前の陸前高田市よりも、もっともときれいになってればいいと思います。

「つなみ」森 健（編）より

持ち歩こう！君だけの防災ポーチ！防災きんちゃく！

手が洗えない，ご飯も食べられない…そんな状況になってしまったら，みんなはどんな気持ちかな．友達と遊んでいるとき，家族とお出かけをしているとき，突然避難しないといけなくなるかもしれません．「あれを持っていればよかった…」とならないように防災ポーチ，防災きんちゃくを持ち歩こう．

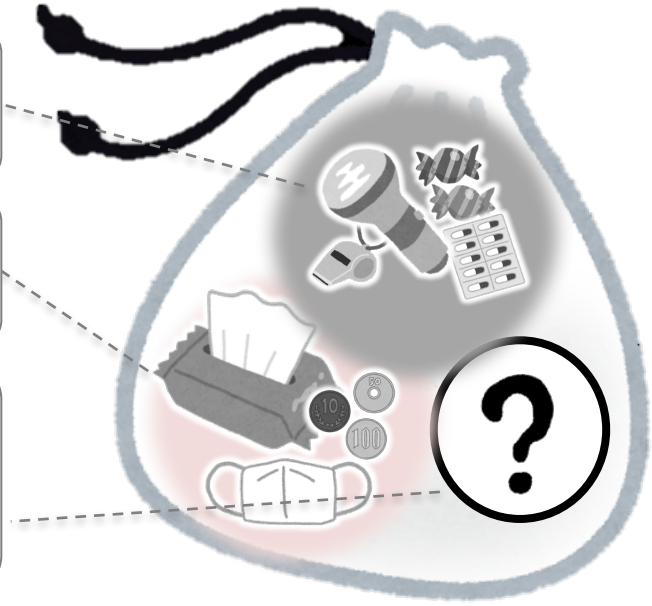
1 命を守るために絶対に必要なもの☆

ライト，ホイッスル，おかし，くすり，など

2 いざという時に便利なもの☆

ウエットティッシュ，マスク，小銭，など

3 持っていると「ほっ」とするもの☆

災害時は不安がいっぱいです．持っていると安心するものを入れておこう．

小さい人形，おまもり，ペットの写真，など